

1. 件名：福島第一原子力発電所における高性能容器(HIC)スラリーの固化有無確認の状況に関する面談

1. 日時：令和5年1月19日(木) 14時00分～15時20分

2. 場所：原子力規制庁6階会議室

3. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

正岡企画調査官、松田室長補佐、佐藤室長補佐、横山係長、吉田技術参与
澁谷企画調査官(テレビ会議システムによる出席)

福島第一原子力規制事務所

高松原子力運転検査官(テレビ会議システムによる出席)

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所 担当5名(テレビ会議システムによる出席)

4. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社(以下「東京電力」という。)から、2023年1月10日に実施した高性能容器(以下「HIC」という。)スラリー固化有無の1回目調査結果に関して、資料に基づき、以下の説明があった。
 - スラリー固化有無確認のための調査概要
 - 調査手順
 - 調査結果
 - 結果のまとめと今後の予定
- 東京電力から、移替え対象HICにスラリー抜出装置(以下「SEDS」という。)が締結出来なかった4基のHICについて、資料に基づき、以下の説明があった。
 - SEDS側の締結用ボルトについては、当該HIC4基以外は問題無く締結出来ているため、HIC側の締結用ボルト穴部に原因があるものと推定。
 - スラリーを抜出するためにはSEDSの締結が必要であるため、現在、HIC側の締結用ボルト穴部の手入れ方法の改善について検討中。
- 原子力規制庁は、上記説明内容を確認するとともに、東京電力に対し以下のコメントをした。
 - 流動性の有無の確認については、想定しているスラリー移送を模擬した方法で確認作業を実施すること。例えば添加する水溶液の性質の違いや、容器が固定された状態での攪拌の方法やその可否等について検討すること。
 - 本調査で採取するスラリーは放射能(線)レベルが非常に高いため、採取したスラリーの取扱いや、ダストの舞い上がり等による被ばく、汚染対策に留意して引き続き調査作業を行うこと。
- 東京電力から、上記コメントについて了解した旨回答があった。

6. 資料

- HICスラリーの固化有無確認の状況について